

福井大学生のための / ふくだいプレス

創造力、実践力。
国立大学法人
福井大学

VOL.25
2016 APRIL



特集

新入生歓迎!

サークル、サークル、サークル!

学生広報スタッフ企画 We♥福大

新入生も在生も必見! 気になる施設にズームイン!

お題に対し、福大生に答えてもらうコーナー!

福大生ナウ

今号のテーマ

大学に入って ビックリしたことはなあに?

新入生のみなさん、ようこそ福井大学へ! 大学生活には、初めてのことがたくさんあってビックリすることもあるのではないのでしょうか。今回は、みなさんの先輩から、大学生になってビックリした体験を聞いてみました。



学生と先生の距離が近い

教)学校教育課程4年 伊藤祥太



研究室の機械が使えること

日本人が親々!

(左)工)物理工学科 特別聴講学生(交換留学生) ジャン・シェンミン
(右)工)材料開発工学科 特別聴講学生(交換留学生) シュー・ヤオ



提出書類がいっぱい

レポートがたくさん

(左から) 教職大学院1年 マグラブナン・ポーリーン
工)物理工学科4年 島田真生子
工)総合創成工学専攻2年 ローウ・エイ
教育学研究科 研究生(教育研修留学生) スマンボウ・マリア・イラワティ



みんなが親切

キャンパスのイルミネーション

(左)工)知能システム工学科2年 ト・ウンゴウ
(右)工)建築建設工学科 特別聴講学生(交換留学生) リウ・シンチー



新歓♪

(後列左から時計まわりに)
医)看護学科1年 佐々木茉衣 紅野志帆 齊藤千波
医)看護学科2年 坂井春奈

授業が長い!



(左)医)看護学科2年 青木彩夏
(右)医)看護学科2年 小木茉莉亜



好きな授業がとれる

福井より愛知県民が多い

(左から) 工)建築建設工学科1年 荻谷はるな 松本美優 工藤夏奈 横澤若桜

大学生の力、パワー!



(左から) 医)医学科1年 中村百合子 古屋瑛理 齋藤舜介

Contents



福大生がお題に答える
2 **福大生ナウ**

4 特集 **サークル、サークル、サークル!**

8 特別座談会 **生まれ変わる福井大学**

14 学長メッセージ **心にゆとりを持ち 自我の確立を**

15 Global IMAGINEERへの道をサポート
go go global!

16 世界にイノベーションを
研究者紹介

20 がんばる学生を紹介
FACE

22 就活応援情報
福大生の就活ノート

24 学生広報スタッフが企画
We♥福大

26 卒業生から在学生のみなさんへ受け継がれる
学びのバトン

27 大学の最新情報をお届け
FUKUDAI TOPICS

27 **福井大学基金 寄附者ご芳名**

28 **学務部からのお知らせ**

※掲載されている方の学年等は取材時のものです

表紙について



表紙撮影を行ったこの日は、医師国家試験に向かう医学科6年生を力いっぱい後輩たちが見送りました。気温3度の寒空の下、先輩を激励するためにアイスバケツチャレンジも。そんな後輩たちの姿に心打たれたことでしょうか。このあと、表紙撮影に集まって!と声をかけたらノリノリで協力してくれました。ノリの良い先輩がいるサークル、部活動は間違いなく楽しいはず!

春は

新入生歓迎!

やっぱり

サークル、サークル、サークル!



福井大学には、文化系から体育会系、定番からユニークなものまで様々な部活・サークルがあります。今回は、ぜひPRしたいと応募のあったサークルを4つのタイプに分類してみました!部活・サークル選びの参考にしてくださいね。



文…文京キャンパス **松**…松岡キャンパス

ハード系

文 カヌー部

松 ラグビー部

文 空手道部

松 ハンドボール部

文 スキー部



松 医学部管弦楽団



アクティブ系

インドア系

松 ALFA

松 医学部アカベラサークル Music Glass

文 アカベラサークルふれんど



文 BBSサークル



松 劇団くらげ

松 マジックサークルClown

ゆったり系

文 **BBSサークル**



BBS(Big Brothers and Sisters Movement)は、地域社会で兄や姉のような存在として子どもたちを見守り、その成長を支援するとともに、犯罪や非行のない社会の実現に向けて更生保護・非行防止活動を行うボランティア団体です。学習支援やスポーツ交流を通して子どもとふれあっています。



全国各地にBBS会があり、知り合いが増えます!

教)地域科学課程3年
土本悟史

- 部員40名
- 活動日 金曜12:15~
(不定期で土日に活動あり)



子どもたちの笑顔に癒されますよ!

工)機械工学科2年
松本諒汰

インドア・ハード系



松 **医学部管弦楽団**

県立大と合同で活動を行い、毎年5月にある定期演奏会に向けて練習を重ねています。ほかにも学校や公民館の依頼演奏など、様々な場所で演奏しています。私たちと一緒に楽しく音楽しませんか?気軽に福利棟2階に遊びにきてください!

プロとも共演できるよ!



- 医)医学科3年 森川遼
- 医)医学科3年 市橋祐志
- 医)医学科4年 新田彩巴
- 医)医学科4年 中山藍

- 部員50名
- 活動日 火18:00~21:00
土14:00~18:00

松 **マジックサークルClown**



去年発足した福井大初のマジックサークルです。クローズアップマジックという、目の前で使うトランプなどを使ったものを主にやっています。また、依頼されたところに出張もします。マジックで未知の世界を広げましょう!

練習を積み重ねれば、プロ級のマジックが身に付きます!



- 部員24名
- 活動日 水18:00-19:30
金13:00-14:30

医)医学科1年 日野南欧輝
医)医学科1年 内藤豊智

※サークルの認可申請中です。

インドア・まったり系



まずは新歓公演を見に来てね!

松 **劇団くらげ**

個性的な役者陣は県立大からも集まっています。学生団体としてはかなり年齢層が幅広く29歳の団員もいます。公演で使用する脚本はすべてオリジナルで、面白い舞台を目指して皆で試行錯誤しながら作り上げています。



医)医学科3年 大島慎太郎
医)医学科3年 盛野弘法

- 部員23名
- 活動日 水18:20~20:00

先輩が優しいので初心者でも大丈夫。ステージのスポットライトを浴びるのは最高!



医)医学科1年
成田巧

松

ラグビー部



先輩後輩の関係なくみんな仲良しです！大学から始めた人も多く、ルールがわからなくても全然大丈夫です！4、5月は最高に楽しいイベントだらけなので、ラグビーに興味があってもなくてもぜひ一度ラグビー部に来てください！

ROZOPICに行かなくても素晴らしいポディが手に入ります！



医) 医学科3年
牧野成彦

- 部員40名
- 活動日 火・木16:45~19:30
土9:00~12:00

とにかく楽しいです！



医) 医学科1年 安田将人



文 カヌー部

私たちはカヌーポロという水上で行うハンドボールとバスケットボールのようなスポーツをしています。活動は、週に2回、大学のプールやあわら市の北潟湖で、全国で行われる大会に向けて練習に励んでいます！気になったらまずプールに見に来てください！ほとんどの人が大学からのスタートです！

新しいスポーツをやりたい方はぜひカヌー部へ!!!
女子部員、大歓迎です！



- 部員30名
- 活動日 水16:45~19:00
土13:00~17:00



工) 生物応用化学科3年 石田康祐
工) 材料開発工学科3年 前畑匡志

松

ハンドボール部



バリバリの経験者から初心者まで幅広く活動しています。レギュラーの半数が初心者の中、医歯薬リーグ1部昇格などの結果も出しています。夏には海でBBQ、冬にはクリスマス会、ウィンタースポーツと、遊びに行くことも多く、雰囲気の良い松岡一です！

めざせ西医体優勝！
新しいスポーツを
始めたい人はぜひ！



- 部員24名
- 活動日 火・木・土16:45~19:45
または19:45~22:45

医) 医学科3年 木寺将大
医) 医学科2年 橋本紳太郎

アクティブ・ハード系



文 空手道部

十数年前に廃部した空手部が復活し、今年3年目を迎える部活です。伝統空手の4大流派の一つ、和道会を主とし、学連の大会に積極的に参加しています。部員も徐々に増え、個人戦はもちろん、団体戦にも出場し、全国大会入賞も果たしました。

流派・経験の有無は問いませんので、少しでも武道に興味のある人はぜひ！



工) 情報・メディア工学科2年 鳥居欣永
工) 機械工学科3年 川上有都

- 部員7名
- 活動日 不定期

歌好き集まれ!



文 アカペラサークルふれんど

アカペラとは楽器を使わず、歌声だけでハモったり声で楽器を表現する演奏方法のことです。最近では、ハモネプというアカペラの番組もあります。最初は誰もが初心者なので、興味を持った方はぜひ見学に来てください!



工) 建築建設工学科2年 牛田考政
教) 地域科学課程2年 後藤佑美
工) 建築建設工学科2年 島村拓也

●部員24名
●活動日 水18:00-19:30
金13:00-14:30

アクティブ・まったり系



松 医学部アカペラサークルMusic Glass

医学部アカペラサークルMusic Glassは「アカペラで地域貢献」をモットーとし、老人ホームや地域のイベントでの歌唱をはじめ日々精力的に活動しています! サークル員は約20名で主にお昼休みに活動しています。兼部も可能でサークル員のほとんどが兼部していますよ(^ ^)カラオケとも合唱ともひと味ちがうハーモニーを一緒に奏でてみませんか? 歌が好きな人なら誰でも大歓迎! お待ちしております!!

医) 医学科4年
乾 菜々美

一緒にハモリを楽しみましょう!



●部員20名
●活動日 平日の昼休み

松 ALFA

ALFA (Advanced Life Support Association) は、医学部の1~6年が参加している救急医療のサークルです。他大学との交流を兼ねた合同勉強会などを行っています。一次救命処置(BLS)や二次救命処置(ALS)、外傷の応急手当など、とっても勉強になりますよ!



●部員60名
●活動日 不定期

「医学部に入った」と実感できますよ!



先輩はカッコよくて、カワイイ人が多いです(笑)

医) 医学科2年
上村慶太
小山拓也
奈良史生

医) 医学科4年
千吉良彩花
佐山裕斗

文 スキー部



夏(4~11月)はインラインスケートでスキーにつながる練習をしています(ホッケーなど)。冬(12~3月)は平日はナイタースキー、週末は他大学と合同合宿で練習しています。医学部のスキー部ともよく一緒に練習します!



●部員17名
●活動日 水16:30~
(活動が学外のため東門に集合)

初心者大歓迎! いつでも気軽に来てください! 待ってまーす!



工) 電気、電子工学科4年
佐藤徹

夏のBBQや花火、冬の鍋など、楽しくわいわい活動しています!

工) 建築建設工学科1年
杉山由真
高木恵梨





特別座談会

生まれ変わる福井大学

充実した学びの実現へ、福井大学が新たな出発を切ります。新設された国際地域学部は「国際」と「地域」を一体にした国立大学では唯一の学部です。教育学部は教員養成に特化した学部となり、医学部では新カリキュラムがスタート、工学部は8学科から新5学科に改組します。新たな船出のかじ取りを担う4人の学部長となる教育学部の石井パークマン麻子教授、医学部の内木宏延教授、工学部の小野田信春教授、国際地域学部の寺岡英男副学長に、強い思いを語っていただきました。

4学部による大学改革

寺岡 いま大学に対して「国際化」「地域創生」が求められています。グローバル化した地域の課題を考える時、国際と地域を別々に捉えるのではなく、現実の課題を一体として考えていく。定員60名と規模は少ないものの、グローバル社会のなかで、地域創生に役立つ人材育成という非常に大きな使命が課されています。かなり思い切った、従来にはない学部だと考えています。

石井パークマン 学生には「教師という仕事の魅力」を大学時代に垣間見てほしい、味わってほしいと思っています。すでに教育地域科学部の時代から大学教員と学生が教育現場に頻繁に出かけ、実践から学ぶというベクトルを非常に大切にしてきました。今後、さらにはくまらせ、強くし、実践と理論の往還、融合に学部を挙げて取り組み、一方でアクティブラーニング（A.L.）という教育方法の開発も進めたい。

専門を問わず、日本語以外に、コミュニケーションが可能な言語をひとつ習得する意味は大きいでしょう。そのためにもこれまで英語の授業を充実させてきました。忘れてならないのは自分を表現するための言語の重要性です。自分の専門を深く学び、日本語以外の言語で意見交換できる学生が増えてほしいと願っています。

内木 いま医学教育の質保証が世界レ

ベルで求められており、教育の質を認証する必要があります。それに合わせ、さまざまな基準をクリアする教育カリキュラムを無事にスタートさせることが責務だと考えています。国際標準化には多面的な意味がありますが、実践から学ぶということで臨床実習を約2倍に増やすことが求められています。それによって自ら行動できる実践力のある医師、看護師を育てていけると思っています。基礎医学教育を前倒しして1年生から解剖学の実習が始まり、4年生で病院実習をスタートさせることとなります。A.L.によって、自らの意志で学ぶという姿勢を身に付けることも求められます。地域との関わり、地域医療は大事な問題で、教育とも密接に結びついています。

小野田 工学部は人間の社会と密接に関わる技術について学ぶ学部です。卒業生の多くは技術者として社会に巣立っていく。しかし社会は急速に変化しています。現在ある職業のうち、ITの進歩などによって10年後、20年後にどれだけ残るかわかりません。そうした社会の変革に対応し、技術者として生きるには自ら考える力が求められます。工学部では、これまでも、専門知識だけではなく、その周辺も含めた幅広い知識を持つことで、いろんな状況に対応できる技術者を育成するという観点から教育を行ってきました。今回の改組は、それをさらに深化させることを目的に行ったものです。また、従

来から「グローバル・イマジニア」育成を目標に掲げていますが、グローバル化への対応をより強化することも改組の大きな柱のひとつです。

地域の課題を解決することも大切で、そこで、福井県の課題として盛り込んだのが「原子力」と「繊維」の人材育成強化です。大学院には両者について学ぶ課程はありますが、学部にはなかったため、学部段階で取り組む体制を作るため、教育課程を新たに整備しました。

学部から大学を変える

寺岡 国際地域学部の狙いと大学が求められているものには、重なり合うところがあります。一つは「流動性」といいますか、語学力を駆使して海外と交流を進め、グローバルに移動することによる多様な機会の実現がある。昨年タイなどに行き、アジアでも流動性が進んでいると感じました。逆に日本は遅れていると思います。それで、英語については、1年生は徹底的に学び、3年くらいの時に半年ないし1年の海外留学を経験します。

また、地域の生きた課題を考えると、もはや座学では済まない。課題に直面している自治体、企業、関係する機関など他の知的資源と協働し、学生も参加させてもらう。言いかえれば、大学の教育に、自治体や企業にも参加してもらおう。そうした連携のなかで、生きた課題をどう解決していくか。そのた

めにはお互いの関係をどう作っていくかが求められています。

今後は、どう学びのコミュニティを作っていくか。職員や教員がどう関わり、あるいは学外の企業や自治体、地域の人々が入って、多様で多層な「学ぶコミュニティ」を作っていくことが課題となる。国際地域学部は文理融合型で、工学部や医学部とも連携し、学部の枠を超えた教育を行っています。その上で全学に提案し、貢献できると考えています。そうした中で、自律した学びのできる学生をどう育てていくのか。これらを軸に大学を変えていきたいと思っています。

小野田 座学を踏まえた上で、創造的な力を育成することが必要です。創造力を育成する教育の方法には、PBL (Project Based Learning)、あるテーマに即した「学生主体の学び」である創成教育、企業に向かい「学ぶインターンシップ」などがありますが、それらを他学部との関係の中でもやっていきたい。工学部で学ぶ幅広い知識には、国際地域学部が目指すところ、たとえば「MOT (Management of Technology)」など、重なり合う部分もある。共通する課程が組めないか、大学院教育も視野に入れながら検討していきたいと考えています。

語学力が重要というのは同じ認識です。これについては語学センターと工学部が協力して語学に関するPBLを試行的に行っています。工学部の先生

が技術的なところを、語学センターの先生がプレゼンテーション力や英語表現を受け持ち、工学に関わる内容を英語で学ぶことを目的としたもので、すでに大きな成果を得ています。これを工学部から全学に発信していきたいと考えています。また、医学部とはこれまで医工連携の取り組みを行っていましたが、それらの観点から工学部が全学に貢献できないか、可能性を探ってみたいと思っています。

内木 教育という点で、福井大学は福井県にとってなくてはならない、もっと言えば、福井大学の取り組みが日本にとってなくてはならないものにしていく必要があると思います。特に地域医療はいろいろなレベルの「命のセーフティ・ネット」を張り巡らせる必要がある。「最後の砦」として高度先進医療を提供することが一方の極なら、在宅やその他の施設で人間の死に向き合わなければならぬ。医師、看護師、薬剤師のチームが訪問して治療にあたる医療体制が重要です。福井県はいろんな意味でモデルとなる地域なので、地域と関わりながらその重要性をわかっ

てもらおうことになり。一方、こうした地域の医療と国際化は裏腹の関係にあります。地域や日本に密着する教育と、グローバルな教育を同時に実現する教育が求められます。福井や日本に貢献するだけでなく、世界にどう開いていくか。ベクトルが反対に見える二律背反のものをどう実現

自分をオープンにして人との出会いを大切に



教育学部
石井パークマン麻子 教授

自分はこの程度のものであるという考え方を捨てて



工学部
小野田信春 教授

初の新生には大きな期待を持っています



国際地域学部
寺岡英男 副学長

自分の内面に働きかけ自分を発見して



医学部
内木宏延 教授



するかが課題ですね。

石井パークマン 私はキーワードとして「多様性」と「感受性」という2つを挙げたいと思います。日本はこれから人口が減り、高齢者人口が増えていきまます。外国と繋がりのある人々をきちんと受け入れないと国の機能が十分に成り立たないところまで来ています。そうした時、自分と一見違う人を排除せず、受け入れてやりとりしていく必要がある。その際、人間的な幅と感受性、共感性が不可欠なのです。教育地域科学部にも県外出身者がたくさんいます。「福井弁を話すと他県から来た学生に驚かれた」ということも経験しており、18歳で、ある種のアイデンティティを突きつけられることもある。各地の方言は多様性そのものであり、身近な場所にも、他県人や諸外国からの留学生など自分とは異なる背景を持つ人たちと触れ合う機会がたくさんあるわけです。一見小さな、しかし大事なチャンスというものがある。それが自分自身の「日本人性」の発見に繋がっ

ていくと思います。グローバル化が進む世界において、人の行き来が盛んになり、日本ではない国や地域を舞台に仕事を卒業生も出てくるでしょう。一方、「福井の地でやっていきたい」という学生も私たちは育てないといけない。学生の適性や人生設計に対応できる多様性が、私たち教師の方にも必要になってくる。

全学の中での教育学部という視点に立ち戻り、教育基本法に明記されている教育の目標を読むと、小・中学校の重要性が再確認されます。教育学部は「初等教育コース」を新たに設置しました。児童生徒や保護者から信頼される人間的な幅をもち、しっかりと教育ができる教員を育てるといふ非常に大きなミッションを持っています。現状を冷静に認識しながら子どもたちと向き合う力を培えるカリキュラムの開発と機会の提供を意識し、丁寧な助言・指導をこれからも積み重ねていきたいと考えています。

多様性を理解し、感受性、想像力を身につける

寺岡 内木先生から、グローバル化と地域は二律背反だという問題提起がありました。新学部は英語を学ぶ動機付けとして、一つには海外留学、そのために英語を学ぶ。地域の閉じた経験ではなく、海外留学で広く経験を積むことで、地域の課題を改めて捉え直すことができないか。石井パークマン先生

が言われた多様性というと、交換留学制度でいるんな国の学生が来る状況を実現したいと思いますね。

改組前の教育地域科学部では、海外移住者の教育や生活支援を、踏み込んでやっている先生もいます。そこに、海外留学した学生が問題意識を持って参加している。新しい学部ではそうした取り組みを、企業や自治体、地域と協働した「課題探求プロジェクト」で取り上げたいと考えています。

石井パークマン 大学院に「協働実践研究プロジェクト」という、専門を超えたプロジェクトがあります。中国やフィリピンなどの留学生と日本人学生が教員と一緒に、共通のテーマを立ててフィールドに出かけて研究します。育った国や視点が違う人とやりとりしながら進めるわけです。文化や社会、歴史の違いからくる視点の面白さなど、互いに発見がありますね。共通点もわかります。

小野田 工学部の教育は、技術の側面からでもいろいろな切り口がある。それをどう捉えていくかは、工学の大きな「学びの形」です。技術を使う人の気持ちになるには、まさに想像力、感受性が大切です。技術という固いイメージがありますが、人間をよく理解しておく必要があります。そこがこ

れからの技術者」にとって一番大事な部分になりますね。それを工学教育のなかで、どうやって身につけてもらうかを考えていく必要があります。

人の心を思いやるのが、人類への貢献へと繋がります。科学技術は人類にとってプラスの面だけでなく、福島原子力発電所事故など負の要素があるのも事実です。人類にどのような貢献ができるか、人文系の学問も含め、深く学ぶことが大事だと思っています。

地域の課題は世界に共通する

内木 地域医療は「たこつぼ」のような世界で、世界から最も遠ざかった隅この場所という考え方もありますが、実はそうじゃない。地域の問題を掘り下げていくと、同じ問題が都会にもある。高齢化して一人暮らしで病院にも入れない。地域で支えないといけない。これは日本だけじゃない。世界でも直面している問題ですね。一見、「たこつ



国際地域学部を 全国のモデルに

寺岡 国際地域学部をいかに持続可能な学部にし、発展させていくかは大変なことだと思います。そのために交換留学制度による協定校拡大を進めます。多様な協定校のメニューを学生に提供することが必要ですね。

さらに自治体や企業と連携し、課題探求プロジェクトを1〜4年次まで発展的にやります。これは授業というより、プロジェクトですね。これまで企業にお願いしていたインターンシップなどの方法では済まないものが求められている。教員がこれまでの発想を変えた形で関わらないといけない。そして企業や自治体が、その連携の中で国際地域学部をどう評価してくれるか。大きな課題です。

もう一つ、学生がいかに主体的に学んでいくかということで、ALを基調とした教育への転換を図ることが求められますが、これは高校の段階でも求められている。そのために高大接続入試をやります。高大連携など、相互に関わりながら授業を改善し、それを入試に繋げていく仕組みをベースとして考えなければならぬ。できれば海外まで広げた特別入試を設ける。タイの高校では「日本で学びたい」という学生を送り込みたい」と強い希望がありました。その受け皿を作りたい。また、国際地域学部だけでな

く、教員養成や工学部、医学部に関心があるという学生もいる。ALなどによって学びの形を変えながら、大学教員も関わり、高校生を変えていく。そして能力を持った高校生を大学が正しい形で迎え入れる。そうしながら持続可能な学部を作っていきたいと思えます。

学部の垣根を越える

小野田 幅広い知識を持った技術者を育成するためには、工学部の教育を超えた教育も必要になってきます。国際地域学部が文理融合を打ち出しているの、工学部の学生にとって必要な知識を教育できるよう双方の教育について検討を進め、それが大学院に繋がることを前向きに考えていきたいですね。医工連携に関しては、少なくとも工学の技術が医学のさまざまな分野で使われていることもあり、医学の現場を知ることが工学部の学生にも、非常に役立つと思います。工学には理学的な側面がある。教育学部との関わりについては、理学的な部分に共通するものがあるので、連携できないかを考えていきたいですね。

内木 昔、工学部の先生の講義に呼んでもらったことがあります。心筋梗塞や心臓にまつわる話を説明したのですが、医療機器をデザインする場合、病気を知らないとでは実感が違う。「イメージーションを与える

ことができた」とおっしゃっていました。学生のリアクションも医学部とは違っていて面白かったですね。

地域医療は、教育の面でも、人口減少や多死社会にいかに向き合うかという本質的な問題に直面しています。問題のある児童を教師の目で捉えて支えることは大事ですが、医学的な問題も抱えているわけですから、教育学部で医学の講義をすれば、その視点からも見る事ができる。石井パークマン先生がやっている特別支援教育も、まさにそうですね。

私は医学部管弦楽部の顧問ですが、学生たちはボーダレスです。

団員の半数以上が福井県立大学の学生ですが、大学の垣根なんて超えています。文京にもオーケストラがあります。こちらにもキャンパスの距離を超えて定期演奏会をやっていきます。学生はとうの昔から垣根を超えています。あれぐらい軽やかに超えられたら幸せだなと思いますね。

石井パークマン 工学部と教育学部の関係で言いますと、例えば、建築の先



生と接点があるとわかりました。学校教育はインタラクティブな分野です。日本はまだスタートラインに立ったところですが、生徒、学生がアクティブに学ぶためには、教育内容だけでなく、教育環境をどのように整えるか、容れ物の話になってきますね。再編された工学部の5学科にも私たちが教えていたいただきたいことがたくさんあって、個人的には特別支援教育が専門なので期



待しているところです。

医学部の「子どものころ」に関しては、当面、教職大学院との連携で、何が互いの利点を具体化できる一年になればと思います。内木先生がおっしゃったように、医療・福祉は、教育にとって本当に近いところにある隣接分野です。私自身、看護学や基礎医学の分野でも、もっと知りたいと思うことはあるので、できることを一緒に模索していきたいと思えますね。

英語教育サブコースでは1年次から、上級生と一緒に英語しか使わない二泊三日の合宿をしていますが、ほと

んどの学生が「印象に残った」と感想を述べる。英語を母語とする先生もいますし、サブコースで培ったノウハウと国際地域学部が目指すものはおそらく繋がると思っています。

寺岡 人文社会系の学部ですが、地域が抱える課題に、現実に入り込むわけですから、ニーズに応えるためには、医学、工学が扱う知識を自ずと入れざるを得ない。卒業後、企業や自治体に勤めて直面するのは、文理が入り交じったことであって、そのために学部としてどう教育するか。各学部には連携をぜひともお願いしたい。

小野田先生から「新しい学部にはぜひとも大学院を」と言っていたのですが、卒業生を出す頃には大学院レベルの受け皿を用意したい。MOT（技術経営）がらみで経営、マネジメントを学ぶ大学院教育だとか、もう一本の柱としては、石井パークマン先生がおっしゃった言語、英語を中心にする教育など、外国語を中心にした言語系の大学院を作ってみたいと構想しています。

福大生のみなさんへ

石井パークマン 大学ですから、おらかな学問、おらかな雰囲気を感じてほしいと思います。学生は高校まで受験勉強に励んでいますから、いったんエネルギーが低下することがあるかもしれません。しかし、

貴重な4年間、自分をオープンにして人と関わり、真摯に学んでほしい、そして大学時代に自分を発見してほしいと思います。そのために大学や学部は、学生一人ひとりを可能な限り、支援する用意があります。教育地域科学部の在学は、これからも立派な上級生です。「小さな大学」の良さを生かして縦の繋がりを大事にし、新入生に対しても在学生に対しても個に着目した丁寧な指導をしていきたいと思っています。

内木 大学生活は誰にとっても一生のうち、最も輝かしく、体も元気で、楽しい時間です。その時に、勉強はもちろんならなければいけません。自らの可能性を狭めたりせず、友達を作る、クラブに入るなど、いろんなことにチャレンジしてほしい。そして自分の内面に働きかけて、自分を発見する。本を読み、音楽を聴くなどして静かな時間も過ごしてほしいですね。

小野田 工学部は必修科目が多いのですが、自分から積極的に学ぶという姿勢をぜひ身につけてほしい。そうした学びを支える工学部の施設、プログラムは充実しています。教員も非常に教育熱心です。これは前身の福井工業高等学校から続く長年の伝統で、「教職員と学生との距離が最も近い学部」と言われてきました。ですから安心して学んでください。ただし、学生時代は順風満帆とはいかないこともある。絵に描いたような青春時代を

送る学生はほんの一部だと思います。悩んで、躓いて、壁にぶつかるとか当たり前と受け止めることも大事です。お願いしたいのは、「自分はこの程度のもの」という考え方をぜひ捨ててほしい。福井大学の学生は成長してきます。伸びしろもたくさん持っています。私たちは学生の伸びしろを一杯育てる教育を行いますのでそれに応えてもらいたい。4年間、学んで楽しんで下さい。

学部の改組はこれまで培った実績に基づいており、良さを生かした改編です。在学生の皆さんが頑張ってきたものを改組に結びつけたともいえます。在学生も自信をもって進んで下さい。

寺岡 新入生には、新しい学部で育てる初めての人材として大きな期待を持っています。初めから、主体的、自律的に学んでください、とは申しません。むしろ新しい学部の仕組みのなかで、4年間を通して、しっかりと力を身につけてほしいと思っています。大学や学部側はこれまでの枠を超えて様々な支援をしていきます。ぜひ、積極的にいろんなことに参加し、みなさん自身、自律的で主体的な学びを、自ら作っていただければと思います。教育学部とも協働しながらカリキュラムや教育の長所を生かしながら、在学生も含めた十分な教育ができる仕組みを考えていきたいと思います。

(司会進行：広報室長 本多 宏)



心にゆとりを持ち 自我の確立を

学長 眞弓 光文



新入生の皆さん、福井大学入学おめでとうございます。

さて、皆さんの多くはこれまで、大学受験が常にある生活を送ってきたことと思います。そのため、部活も、自分を深く見つめることも、十分にできなかった人が多いと思います。晴れて大学生となった今、皆さんには、部活よし、友人とのおしゃべりよし、ボランティアよし、読書よし、思索よし、社会活動よし、貧乏旅行よし、それぞれが楽しいと思えることをいっぱいして、心にゆとりを持ち、自らを見つめ直し、自我を確立してほしいと思います。

私は大学に入学した時、所属する医学部には医学部生だけのクラブがありました。全学のクラブに入りました。そのクラブの文学部の先輩になぜ医学

様々な経験を通して、
自らを、他者を、日本を、
世界を知ることが
大切です

皆さんは福井大学での学びの中で、新たな知識や技術を身につけ、思考力、コミュニケーション力、問題解決力などを高め、社会に貢献できる力をつけることが必要ですが、同時に、グローバル化社会は、多文化理解、多文化共生を可能とする力、すなわち自分と異なる他者の存在を受け入れられる柔軟な思考力、思想性を求めています。大学での学びはもとより、学生生活における様々な経験を通して、自らを、他者を、日本を、世界を知ることが大切です。

福井大学は、皆さんが真のグローバル人材に育っていく過程を最大限支援します。福井の、日本の、そして世界の未来に役立つ力をつけられるよう、ともに学び、成長していきましょう。



文京キャンパス全景



松岡キャンパス全景

go go global!

go go global では、毎回学生の皆さんが目指す「Global IMAGINEER」への道をサポートする情報をお届けします。福井大学では、多くの方が留学できるよう、様々な形態の留学の機会を提供しています。下記の質問に答えて、自分に合った留学タイプを見つけましょう。

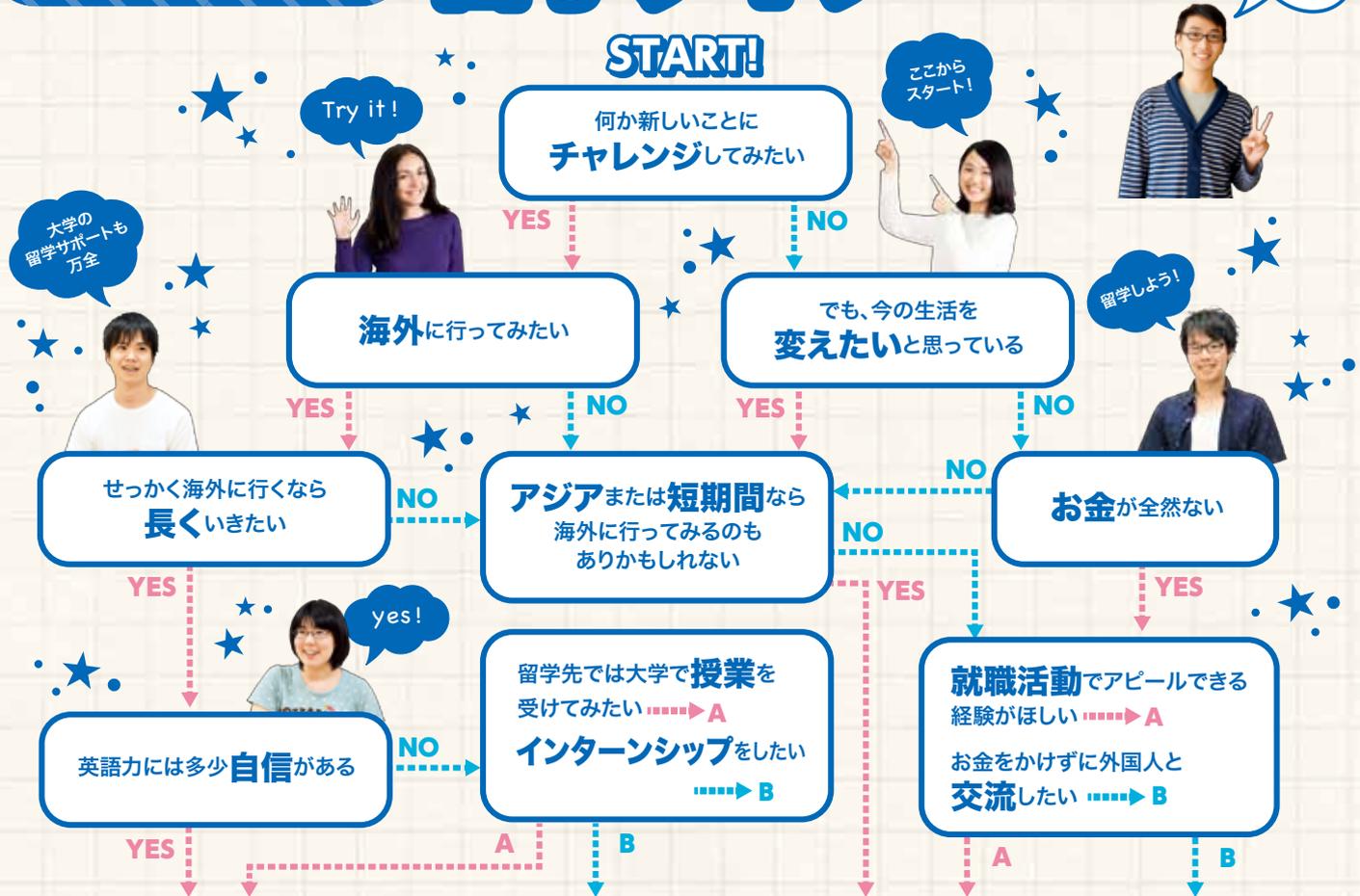
福井大学PRESENTS

キミにおすすめの

留学タイプを診断

Yes・Noでチェック!

START!



1

交換留学

交換留学は、福井大学の学術交流協定校に1学期または1年間留学し、語学集中コースや現地大学で開講されている専門科目を履修する留学制度です。より高い語学力や専門分野に関する知識を身に付けることができます。まずは、7～8月頃と12～1月頃の学内応募に向けて、できるかぎり英語力を伸ばしておきましょう。

2

トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム

座学の授業よりも、実践活動(インターンシップやフィールドワーク)を行いたい人向けです。自分で一から考えた留学計画で応募できるほか、豊富な奨学金や合格者同士のネットワークが魅力です。本学からも每期合格者が出ているので、あなたもチャレンジしてみませんか。募集は年に2回です。

3

短期海外研修 プログラム

1週間から3カ月程度の短期研修です。適切な時期にご自身の目的や外国語レベル等に合った研修に参加してもらえよう、語学研修やフィールドワーク、共同研究等、年間約40本の多種多様なプログラムを実施しています。短期間でも、「語学力が伸びた」「外国人とのコミュニケーションに自信がついた」等の声がたくさん届いています。

4

留学生チューター

留学生チューターは、福井大学に留学する外国人留学生のペアになって、普段の生活や学習面のサポートをします。「費用面を考えると留学は厳しい」と思っている方は、ぜひ留学生チューター制度を活用して、語学力や異文化理解力の向上を目指しましょう。活動時間に応じて謝金ももらえますよ。

各種留学、留学生チューター等についてのお問い合わせは、各キャンパス国際課まで。

文京キャンパス: 大会館1F 松岡キャンパス: 管理棟1F 松岡キャンパス学務室内

変化する世界の中の 変わらないものに注目する



門井 直哉 准教授 (歴史地理学)
Naoya Kadoi

地域区分の不思議

越前、加賀、能登、越中、越後。なぜ越前と越中の間に加賀や能登があるのか。北陸の昔の国名やその並びを知って不思議に思ったことはありませんか？

私は子どもの頃、出身地の千葉を含めて東京、埼玉の3都県にまたがって「葛飾」という地名があることを不思議に思っていました。もともとは関東平野の中にとても広い葛飾郡があつて、府県が出来たときに分割されてこのようになった。…と後に知りますが、それにしても葛飾郡はどうしてそんなに広いのか、疑問は尽きませんでした。

地域の成り立ちを研究する

地域区分の謎に興味を持つようにな

り、大学進学時に、過去の地理的事象について研究する歴史地理学という学問に出会いました。以来、特に国や郡などの地理的範囲がどのように定まってきたのかを明らかにすることを主な研究テーマとしてきました。1300年以上の昔、行政区画として成立した国郡の名称は今でも残っています。もちろん長い歴史の中では

国郡の消長もありました。境界も時代とともに変わったりします。そのような変化が生じた背景や、それぞれの時代、日本の歴史全体の中での国郡の意義を解き明かすことも研究課題です。

ところで、「越前に」「若狭かれい」といったブランド品にあるように、長年にわたって根付いてきた国名には、伝統や格調高さを想起させる良い響きがあるようです。近年はこれら古代に由来する国郡などの地域や名称が、現代に生きる人々の

地理や歴史に学ぶ



研究の一環として開発した国郡郷名検索システム

の行動や心理に、どんな影響を与えているのかについても関心があります。

過去の地理的事象について研究するのが歴史地理学と言いましたが、現在の地理的事象にしても、なぜそこにそれがあのか、という疑問を追究していけば必然的に歴史的な考察となっていくます。そのような意味で、すべての地理学は歴史地理学とも言えます。そして、地理や歴史を学ぶことの意義は、自分自身を過去から続く世界の中に位置づけ、生き方に芯を通すことにあると考えています。歴史といえはその変化の方に目を奪われがちですが、一方で変わらないものにも注目したいと思っています。その中には未来に向かつて変えていくべきものもあれば、大切に受け継いでいくべきものもあるはず

です。地理や歴史に苦手意識を持っている学

今ハマっていること★



中学生の頃からユーフォニウムの演奏を続けています。この楽器、知ってますか？例年、本学吹奏楽部のコンサートで学生と共演することを楽しみにしています。

生は少なくないかもしれませんが、でも何気なく見聞きしていたことが、興味を持って掘り下げたことと後々繋がることがよくあります。将来ひょっとすると芽が出るかもしれない、知的興奮を呼び起こす種がたくさん転がっているのも、大学での学びの良いところだと思います。人文系の分野ですぐに役立つ知識が得られるとは限りませんが、長い人生の中できつと役立つ場面も出てきます。未来の自分のために、そうした種をせっせと蒔いておいてはいかがでしょうか。

最後に、冒頭に挙げた地域区分の謎について、どうしてだろうと思った方はぜひ研究室のドアをノックしてみてください。



心臓の動きを可視化し その機能を解明する



松岡 達 教授 (統合生理学)
Satoshi Matsuoka

実験結果を数理モデルと 統合する統合生理学

生体は、様々な分子、細胞、臓器の集合体です。それらが機能的に連関し、システムを形成することで生体は初めて上手く機能します。生体がどのように機能を統合し、生体の恒常性を維持しているのか、そのメカニズムを解明しようとするのが生理学です。

私は、内科の医師として働いていますが、元来ダイナミックに動くものが大好きだったことから、心臓を動かす心筋細胞に興味を持ちました。現在は心筋細胞に発現するイオンチャネルやトランスポート分子機能を実験的に研究するとともに、コンピュータシミュレーションで心臓の動きを解析し、分子メカニズムを明らかにする研究を行っています。

「心臓」 生命の維持に重要な裏方

心臓は血液を全身に送り出すポンプです。私たちが生きている間、文句も言わずに拍動し、収縮と拡張を繰り返します。心筋細胞では、細胞膜や細胞内小器官(ミトコンドリアなど)の膜にイオンを輸送するイオンチャネルやトランスポートと呼ばれるタンパク質が発現します。これらのタンパク質の働きによって、細胞内でイオンがダイナミックに変化することで、心臓の機能を発揮しています。

研究では、動物心臓から取り出した心筋細胞や培養心筋細胞を用いて、細胞内イオンの変化を追跡するイメージング実験と、膜電位変化や



数理解析を繰り返して新しい発見を目指します

各種イオンチャネル・トランスポート機能を解析する電気生理学実験を行っています。これによって、細胞内イオン動態を担う個々の分子の役割を定量的に明らかにすることを目指しています。実験と平行して、実験結果をもとに個々の要素(イオンチャネルやトランスポート、酵素など)の機能を数理モデル化し統合することで、代謝、活動電位、収縮などの包括的な心筋細胞機能を再構築した各種心筋細胞モデルを作成しました。「数理モデル解析による作業仮説の提示と実験的検証」を繰り返すことで、心臓が働く仕組み、機能破綻から病気になる仕組みを解析しています。

現在、特に心筋細胞のミトコンドリアにおけるCaイオン動態に着目して研究を行っています。ミトコンドリアの機能不全により、不整脈など様々な症状が引き起こされます。ミトコンドリアCaイオン動態が解明されれば、ミトコンドリア病などの治療法や創薬につながると考えています。がん細胞やリンパ球が遊走するメカニズムの研究も行っています。ダイナミックに動くものは何でも興味があります。

誰も知らなかったことを 発見することは楽しい

心臓については、様々な視点から研究が盛んに行われていますが、それでも未知の部分はいくつかあります。実験や解析を通して、これまで誰も知らなかったことを発見できた時は、大きな喜びがあります。現在は、福井大学の工学部の先生や麻酔科の先生と共同研究を行っています。生体機能の研究は、幅広い研究者の知識が必要です。学生のみならずにも、ぜひこの楽しさを味わってほしいです。

今ハマっていること*

コンピュータに向かってばかりだと頭がパンクするので、部屋にサボテンなどの多肉植物を置いて気分転換をしています。忘れたころに水と肥料をあげていますが、少しずつ成長しています。



機械の故障は 材料のストレスから



旭吉 雅健 講師 (材料力学)
Noritake Hiyoshi

材料だって疲れるんです

「刃物を使わずに太さ0.5ミリの針金を切ってください」と頼まれたら、みなさんはどうしますか？おそらく、曲げたり、ねじったりを何度も繰り返すことになるでしょう。すると、針金はグニャグニャにゆがみ、最後には亀裂が入ります。

物体は熱や振動などさまざまな応力を継続的に受けると、そのストレスに耐えきれなくなり、材料としての強度が次第に低下する「疲労」という現象が起こります。さらに高温では時間の経過とともに材料にひずみが増える「クリープ」という現象も起こります。大型ジェット機やジェットコースター、火力発電所の配管などの金属が疲労し、折れたり、破断することがあれば、重大事

故につながります。私の研究はこうした金属疲労を事前に予測する評価手法の開発です。

過酷な環境に耐える

火力発電所はさまざまな形状の配管で構成され、600度の高温環境にさらされます。

さらされますので、材料は複雑な応力と熱応力がかかった多重のストレス状態にあります。こうした配管の金属疲労の状態を調べるには、大きな素材から一辺200ミリの十字形の試



数ミリアサイズの試験片の評価も可能



スマホ内部のはんだも評価できる

験片をつくり、上下左右ひび割れて、経年劣化や寿命を評価することが必要になります。プラント配管に影響のない、もっと微小なサイズで直接採取することができれば、作業工程やコストの削減にもなります。1円玉サイズ程度の微小な試験片で、高精度な寿命評価ができる実験装置の開発を企業と共同開発しており、まもなく完成するところです。

また、スマートフォンなどの基板で使われているハンダ接合部でも劣化が起こりやすく、何らかの要因で断線し、電気信号が伝わらなくなります。電子デバイスのハンダ接合部は、ON/OFFスイッチングの繰り返しや温度の変動による疲労が生じており、年々、微小なものを評価する技術が要求されています。

これまでは高温下の環境を模試した評価装置の実験が行われてきましたが、最近の精密機器は宇宙空間を飛行する人工衛星など私たちが想像もつかない

低温の環境に置かれることも多くなってきました。高温環境を作ることも、一定の低温環境にすることは難しく、現在の氷点下40度〜150度の熱疲労試験も可能です。

実験は真実

私の研究は評価したのちに「判断」が求められます。信頼を得られる判断を下すには、知識や経験を増やし、実験を積み重ねることにあります。地道な作業ですが、実験は何事にも勝る真実です。学生のみなさんには、なぜだろうと思っただけを調べ、実験の仮説を構築し、得られる結果の1回、1回に喜びを感じて欲しいと思います。

今ハマっていること★

学生時代に一般旅行業務取扱の資格を取得しました。旅行業に必要な資格ですが、当時は国内外の歴史や観光地を知りたいとの気持ちで勉強しました。今は、現地の観光を妄想しながら航空券やホテル手配を楽しんでいます。





価値観を超えた コミュニケーションを



ケリー・キング 准教授
(Sociology of Education : 教育社会学)
Kelly King

日本との出会い

私は小さい頃から中国に興味があり、大学に進学した時にAsian Studies (アジア学) のコースを選びました。日本人の研究者が指導教員だったのですが、とても良い人で、日本のことはほとんど知らなかったのに勧められるまま留学先を日本にしました。3年生での留学に備え、1年生の時から日本人留学生がチューターとしているいる教えてくれました。日本との出会いは偶然だったのです。

南山大学に1年間留学しました。アメリカで日本語をあまり勉強していなかったのが苦労しましたが、おしゃべり好きが功を奏し、毎日ホストファミリーと話していたおかげで、日本語でのコミュニケーションが上達しました。

日本とアメリカを歩き来して

アメリカに帰国し、大学を卒業した後、また日本に来て東京の中学校で5年間ALT (Assistant Language Teacher : 外国語指導助手) をしていました。学校現場で気付いたのが、日本の教員がどうやってJSL (Japanese as a Second Language : 日本語を母語としていない人のための日本語教育) を行っているかを実際に見て、学級や学校、地域、それぞれにバイアスがあることをあらためて実感しました。例えば「外国人だからこの問題は解けなくても大丈夫」とか、「あの地域は荒れているから」といった日本人教師の無意識な発言に、学習のバリエーションになるような先入観や、思い込みが入っているのです。海外から日本に来る多くの人が気付くそう

ですが、日本とアメリカを歩き来するなかで自分もそれを実感することになり、博士課程で取り組んだ日米の教育を比較する研究に繋がりました。

ストーリーテリングを使って コミュニケーション

これまで、企業の新商品開発や販路開拓のアイデアなどを、経営者に英語でプレゼンをするPBL (Project Based Learning) や、英語で福井県の文化を紹介するポスタープレゼンテーションなど、コミュニケーションがメインの授業を担当しました。その中で、コミュニケーションに繋がる活動として、ストーリーテリング (Storytelling) に取り組んでいます。ストーリーテリングは、話し手が聞かせるだけの「読み聞かせ」ではなく、話を空で言えるくらいに理解し、その人の思いが聴衆に伝わるように「語る」活動です。話し手と聞き手の会話を引き出す方法でもあるため、英語のコミュニケーション

「自分」は、やったこと、関わったことのある人、世界、そういったものから形づくられないので、やればやるほど変化します。パッションを持ってチャレンジしてください。興味があることをもっと学んでください。

安心なテリトリから 飛び出そう

「自分」は、やったこと、関わったことのある人、世界、そういったものから形づくられないので、やればやるほど変化します。パッションを持ってチャレンジしてください。興味があることをもっと学んでください。

それと私とすれ違ったら挨拶し、そしておしゃべりしましょう。キャンパス内で挨拶してくれる人が少ないので、チャレンジの第一歩としてぜひ声をかけてください！



ストーリーテリングの様子

今ハマっていること*

小旅行が好きで、出張で時間が空いた時は、その土地を見ます。近場では、夏でも冬でも綺麗な越前海岸が好きです！



ふくいソフトウェアコンペティション2015で 大賞を受賞

工学部知能システム工学科4年 高原 渉さん

公益財団法人ふくい産業支援センターが開催した「ソフトウェアコンペティション2015」の一般部門で、工学部知能システム工学科4年の高原渉さんが福井県ソフトウェア大賞を受賞し、ほか4名が入賞。昨年12月12日に国際交流会館で受賞式が行われ、高原さんは受賞したC言語の学習ができる「ECLAT (Elementary C-code Learning Assist Tool)」についてプレゼンテーションしました。



受賞した小高隆宏教授の研究室

制作し、楽しく学習できるように工夫しています。特に技術面では、自分が書いたプログラムを一括して変換することができ、「実行」の確認が容易です。今後、このソフトウェアは本学の授業で使用することも検討中です。

高原さんは「自分が考えたことが、ものづくりとして実現できてうれい。ユーザーの立場になって考えることが大切だと感じた」と今回の手応えを話してくれました。

他の入賞としては、スマートフォンの個人認証プログラム「Authentic GRASP」を開発した小沼遼さん、鉄道車両の運用計画を作成するアプリ「SYOM」を開発した平方敦さん(いずれも、知能システム工学科4年)が協賛企業賞に選ばれ、特別賞は同学科4年の浜崎琢司さん、柳瀬仁洋さんが受賞しました。



プレゼンテーションをする高原さん

がんばる学生を紹介

ふくい学生祭 キャンパスを飛び出して

工学部物理工学科3年 青山泰之さん

工学部物理工学科3年の青山泰之さんが、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、福井大学の5大学の学生とともに「ふくい学生祭」の実行委員長を務めています。

「ふくい学生祭」は、大学生ならではのイベント「学祭」で、福井大だけでなく、他大学も一緒に盛り上がるように企画されました。県内には、まちづくりやボランティアなどの様々な学生団体がありますが、他大学との交流はあまり行われていません。実行委員会のメンバーは、それぞれの活動をしてきた学生が得意なことを活かしながら企画・運営を行っています。青山さんは愛知県出身で、福井にはあまり馴染みがありませんでしたが、イベントに携わることで、他大学の学生、県内企業や行政の方々と知り合う機会が増え、福井の良さが見えてきたそうです。



事業計画を話す青山さん

現在は6月に開催する合同大学祭に向けて準備中です。県内企業の展示ブースを設け、直接企業の人と話をするコーナーを設置するのですが、これは青山さんが「合同就職説明会などでスーツを着て企業の人に会うのと、普段着で会うのでは話しやすいが全然違う」と活動の中で感じたところから考えた企画です。

今後は、学祭だけではなく、人手不足となっている地域の祭りを手伝いながら、福井の大学生がさまざまな繋がりを広げ、継続的に活動する予定です。

青山さんは「この活動を通して、自分の知らないことを多くの人から教えてもらい、将来必ず役に立つと実感できます」と話しています。福井大学のみならずにも参加してもらい、一緒に福井を盛り上げる楽しい企画を考えたいと熱く語ってくれました。



ふくい大学祭実行委員のメンバー

「apfel hauser」 ラストライブ！

医学部アカペラサークル

医学部アカペラサークル「Music Glass」のメンバー乾菜々美さん(医学科4年)、酒井紫帆さん(医学科4年)、嘉生涼代さん(看護学科4年)、日浦悠斗さん(医学科3年)の4名が結成したグループ「apfel hauser(アップルハウス)」が、3月19日にラストライブを迎えました。

apfel hauserは、創部5年目のMusic Glassで初めてのメンバー固定のグループで、サークルを結成した酒井さん、結成当時からメンバーの乾さん、嘉生さんが昨年入部したアカペラ経験豊富な日浦さんを誘って誕生しました。現在Music Glassの代表を務めている乾さんは、「サークル設立当初は、ここまで成長できると思ってい



ラストライブに向けて練習に励むメンバー

りませんでした。部員が増えて、グループもたくさんできました。さらにハモネプにも出場経験のある日浦さんが入部してくれたことで部員全体のモチベーションアップにつながっています」と話します。

3月で卒業するため、嘉生さんが、グループとしてはラストライブになりましたが「今年一年は、審査つぎの音楽イベントに挑戦したり、他の大学や社会人グループなど交流もすごく広がりました。単独ライブも実現できたし、充実の一年でした。ラストライブはこれまでの集大成です。後輩たちに次を託したい」とこれまでを振り返って話してくれました。



ライブでは、いつも赤いものを着ていました！

FACE

探求ネットワーク 22年目の活動に向けて

教育地域科学部

学生と地域の子どもたちが協働してプロジェクトを創る「探求ネットワーク」は、これまで21年間、授業の「環」として開催されてきました。1年生の多くが選択し、取り組んでいます。5月の開講式から12月の成果発表会「なかもつり」と閉講式まで8カ月わたるプロジェクトが無事に行われるように、2、3年生が運営の主体となり継続して活動しています。

今年5月からの22年目を運営するにあたり、1月20日に21年目を振り返る「サイクルラウンド」を行い、これまで9つのブロックごとに振り返ってきた内容を意見交換しました。他ブロックのメンバーからより良い活動となるよう、それぞれの活動を通じて気付いたことや課題



サイクルラウンドの様子

を伝え合いました。

そして、2月18日に引退する3年生から2年生へ、管理係や広報係といった運営力テグリーごとに、失敗したことやこうすれば良かったことなどの引き継ぎが行われました。

議長(探求ネットワーク代表)を務めた教育地域科学部3年の松本恵哉さんは、「ブロックを超えたつながりをどうやって強くしていくかが一番難しかった。12月は大きなイベントが続き、講義やサークルなどやりくりしながら活動を行うのは勉強になった」と1年を振り返り、「新3年生が前に後ろに活動することで探求全体が一つのチームとなるよう頑張ってください！」と後輩にエールを送りました。



引き継ぎでの意見交換



福大生の 就活ノート

学生が企業・官庁の人事担当者へ、会社の魅力や特長、求める人物像などをインタビュー。学生生活を有意義に過ごすためのポイントが隠れているかもしれません。今回は東海旅客鉄道（JR東海）の森 淳さんに学生2名が取材しました。

基本情報

東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)

所在地：[本社]愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4 JRセントラルタワーズ
[東京本社]東京都港区港南2-1-85 JR東海品川ビルA棟

社員数：18,231名

事業内容：鉄道事業、関連事業



日本の大動脈輸送を担い 生活支える誇りと使命感

— 仕事内容を教えてください。

1987年の会社発足以来、貫して東京〜名古屋〜大阪という日本の大動脈の新幹線輸送、そして名古屋・静岡を中心とした東海地域の在来線輸送という使命を担ってきました。日本経済ならびに地域社会に貢献し、国民生活を支える鉄道会社として、誇りと使命感を常に持ち続けて運営しています。

日々の業務を遂行するにあたって、安全の確保を輸送業務の最大の使命と位置づけています。安全への取り組みに「これでよい」という終着点はなく、着実に積み重ね、理想を求め、将来にわたって永続的に進めていかなくてはなりません。

また、首都圏〜中京圏〜近畿圏を結ぶ高速鉄道の運営を持続的に完遂するために超電導リニアによる中央新幹線計画、世界最高水準の技術力を駆使した高速鉄道システムの海外展開、駅立地を十分に生かした高層複合ビルの開発事業も推進しています。

求められるのは 「規律」と「想像力」

— どんな人材を求めていますか？

安全を支えるために、ルールを遵守する「規律」、サービスを維持・向上し、事故を防止するための「向上心」「挑戦」「想像力」、関係する社員と連携・協力し、一人ひとりが責任を持ってやり遂げる「チームワーク」が大切です。これらの能力を備えた学生を採用したいと考えています。

相手の気持ちを察する感性と 物事の本質を考える力が必要

— 「想像力」を持った人材とは？

運輸の面では「このお客さまは何を求めているのか」「何がお困りなのだろうか」と感じる力。車両の面では「もしこのメンテナンスを怠ればどうなってしまうのだろう」と考える力を持つ人です。「規律」というと、決められた事柄をやらなければならないと思われるかもしれませんが、なぜそれをやっているかを考えることが重要です。遵守する規律の意味がわかっているなければ、単にルールを守ることが目的になってしまいます。物事の本質を考えるために想像力が大事なのです。

自分の仕事に誇りを持つ

— 福大生へのメッセージをお願いします。
東日本大震災の時、電話連絡さえできない状況のなか、「自分たちが人々の生活を支えている。やらなきゃ」と社員たちが自主的に職場へ集まってきました。自分たちの仕事に誇りを持っている何よりの証拠でしょう。鉄道事業は日々の業務にしっかりと取り組むことで、人々の暮らしをもっと豊かに、そして日本を元気にしていける仕事です。



東海旅客鉄道株式会社 総合技術本部 技術企画部
森 淳さん

No.

Date . . .

採用担当者を直撃!

就活あれこれ Q&A

合同説明会ではなかなか聞けないようなことを採用担当者にズバリ質問! 採用担当者のホンネを教えてくださいました。

工)機械工学科3年 空尾大登(右)
工)機械工学科3年 加藤大輝(左)



Q どんな分野で採用していますか?

A 事務、運輸、車両・機械、施設、電気・システムの5系統があり、職種では総合職とプロフェッショナル職、アシエイト職があります。

Q 勤務地は中京エリアが中心ですか?

A 東海というと中京エリアのイメージが強いかもしれませんが、新幹線は東京から大阪まで走っていますので、東京・静岡・愛知・大阪など幅広いエリアが勤務地となります。将来的には主な海外への赴任も増えていくでしょう。

Q 「鉄道好き」は有利ですか?

A 有利でも不利でもありません。ただし、鉄道が好きなら、「この分野の仕事は絶対やりたい。他の仕事はしたくない」となると、転職や希望部署以外に配属された時に支障を来す恐れがあります。「仕事は仕事、趣味は趣味」とメリハリをつける必要があるでしょう。

Q 研修内容を教えてください

A 鉄道会社は「現場ありき」なので、どの職種で入社しようと現場研修が行われます。たとえば事務系統では新幹線の車掌や駅員を経験し、日々、鉄道の安全がどのように守られているかを身をもって学びます。

Q 学校も経営されているのですか?

A 当社やトヨタ自動車、中部電力などの企業を中心となり、中高一貫校の「海陽学園」を運営しています。当社に入社後、「フロアマスター」として学園に赴任し、生徒の生活指導やさまざまな相談に乗る仕事に携わることもあります。

就職支援の現場から

スタッフ リレーコラム 第16回

みんなの就職支援室

就職支援室

室長 大橋祐之



新入生のみなさん。福井大学によろこそ！新入生にとって、大学生になったばかりで就職とか進学ってまだまだ先のことで、すよね。まだ考えたくない...と思って当然です。就職支援室は3年生になってから行けばいいや...と思ってるかも。しかし最近、就職を意識して福井大学に入学する方も多くなり、1年生でも就職支援室に顔を出してくれる学生が増えています。我々も「みんなの就職支援室」になりたいと思っています。就職活動(就活)を始めた学部4年生や博士前期課程2年生は、就職支援室の機能をとにかく使い倒してください。そして、新入生も新2・3年生の皆さんも、ぜひとも気楽に就職支援室のドアを開けてください。皆さん全員のために役立ちたいと思います。就職関連の図書

は300冊以上と充実しました。iPadでいろいろな企業検索もできます。そしてどんなことでも聞いてください。
例えば：
・大学院進学について聞いてみよう。理系ではもう当たり前のように院進学です。
・先輩方がどんなところに就職しているのか、気になりませんか？
・就職活動ってどんなもの？
・大学入試とどう違うの？
・とりあえず、「用も無いのに就職支援室」も大歓迎です！来てね！ 新入生諸君！

新入生も在學生も必見!

学生広報スタッフが送りするページ

気になる施設に/ ズームイン!

We LOVE 福大 vol. 21

今回は、学生がよく利用する7施設についてリサーチ。
新入生はもちろん、在學生も「こんな使い方あったんだ!」と
新しい発見があるかも?!

総合図書館

飲み物OK、iPad貸し出しも!

年末年始などを除いてほぼ毎日開館。県内図書館だけでなく福井県立大学や仁愛大学の蔵書の取り寄せや、インターネット(WebOPAC)から予約・貸出延長などができます。ペットボトルなど蓋付きの飲み物なら持ち込みOKで、静かに読書や勉強ができます。



WebOPACのIDとパスワードが、学生証の裏面に記載してある番号になっているのを皆あまり知らないようです。また、勝木書店でのブックハンティング(本の買い出し)を年1~2回しています。多少制限はありますが、学生なら誰でも参加することができ、自分で選んだ本を図書館の蔵書に入れられるのでオススメです。また、iPadの無料貸し出しもしています。期間は1日ですが、学外への持ち出しも可能です。

工学研究科総合創成工学専攻1年 谷口 湊

文京
キャンパス

カフェテリア味菜

早朝から夜まで営業してます!

食堂「味菜」は、多くの学生が利用していて、特に昼の時間帯はとて混雑します。時間をずらしたり、定食レーンや丼ものレーンがすいていることがあるので、そちらを利用してみるのもオススメです。メニューは週替わりで、月曜と木曜の夕方は普段と違うグラムバーメニューが登場します。



平日は早朝から夜まで営業しているので、3食すべて利用できます。アイデアメニュー企画やフェアなど、期間限定メニューを楽しめるイベントもあるので、チェックしてみてくださいね。また、「声のカード」でいろいろな要望を出すこともできます。返却レーンの後ろに掲示されているので、どんな要望があるか見るのも楽しいですよ。私は授業の空きコマに、勉強や友達とのおしゃべりなどでも使っています。特にテラス部分は22時まで開いているので、テストの勉強にもうってつけです!

教)地域科学課程3年 池田 悠乃

保健管理センター

心身の健康を第一に!

保健管理センターは学生や教職員の健康を管理する“大学の保健室”。また、各種健康診断を実施しながら在学中の学生の心身の健康についてサポートしています。



毎週月曜日にヨガを楽しく行っているので、参加希望を言えば学生は無料で参加できますよ! 学生生活で不安なことや何をすればいいか迷っていることがあれば、相談にのってくれる先生がいるので、一度お話ししてみたいよ!!

工学研究科知能システム工学専攻1年 杉浦 拓己

Global Hub

留学生と気軽に交流できます!

いろんなイベントに参加したり、昼食を食べながら、福大生や留学生と交流できる施設。ハブに置いてあるスタッフ情報も皆さん個性的で面白いです。ゲームをしながら英語や日本語を勉強でき、文化交流できる「日本語&英語TIME」(毎週月曜日)、「Christmas party」「Halloween party」のような季節のイベントもあります。



「日本語&英語TIME」を担当しています。いろんな国の学生とゲームをして交流でき、日本人は英語を、留学生は日本語を互いに勉強できます。いろんな国の文化を学べるし、日本文化を見直す良い機会にもなります。たくさん友達もできるので気楽に遊びに来てください!

教育学研究科教科教育専攻2年 徐 志鵬

カフェテリア PLUM

ご当地フェアや丼コンテストも人気!

2015年10月にリニューアルしたばかりの食堂です。席も30席増えて250席になったため、混雑が少なくなりました。松岡キャンパスは医学部だけなので、学生の授業のコマ数や休憩時間がほぼ同時ということが多いです。そのため「どうやって早く料理を選んでもらいたい、温かいうちに食べてもらえるか」がコンセプトになっています。ふらっと遊びに行くだけでも、たくさんの知り合いに出会えます(好きな人を見たい時には利用するといいかも...!♡)。



ほうれん草の上にごぼろの温泉卵が乗った「巣ごもり卵」は、栄養素も美味しさも兼ね備えたイチオシのメニューです!メニューは一部日替わりになっていて、毎日通っても飽きません。ほかにも年に4回ほど、九州や沖縄、北海道のフェアなど、各地域でよく食べられる料理を特集したり、丼コンテストで、学生自らが選んだ人気の丼が食べられる企画など、楽しめる工夫がいっぱいです!

医) 医学科1年 浅野 瑠穂



医学図書館

24時間利用でき、荷物の預かりも!

勝木書店で選んだ本を図書館が独自に購入する「ブックハンティング」を年1~2回実施しています。できるだけ学生からのリクエストに応えられるように、本のリクエストBOXも設置しています。2Fのグループラボではグループ学習ができます。電子掲示板がある部屋もあり、勉強会などに役立ちます。1Fの演習室もラボと同じ時間利用可能です。上記の部屋で使える貸出用プロジェクターもあります。



医学図書館は、24時間開いており、個人やグループで勉強できる机やラボがあるので、よく利用しています。普段は個人机で勉強し、ラボでわからないことを勉強会で共有し友人と教え合うなど、用途に合わせて利用できてとても便利です。また、書き初めのイベントや国家試験の受験生は荷物を置けるなど、サービスが充実しています。専門書が豊富で調べたい時に調べられるだけでなく、小説や旅行ガイドなどもあって楽しめる、お気に入りのスポットです!

医) 看護学科4年 吉村 瑠璃奈



松岡 キャンパス

SAC (Self-Access Center)

個室でDVD鑑賞できる最高の環境!

Self-Access Center (通称:SAC)とは、「英語を学びたい!」という人のための自主学習施設です。開館日は主に平日の17:00~19:50で、場所は医学図書館2階のグループラボ近くの階段より1階へ降りたところにあります。長期休暇には日中も開いている時もあります。全25部屋冷暖房付きでインターネット完備、多くが個室となっており、快適な空間です。自由に視聴できるDVDも海外ドラマ(ゴシップガール、GREE、ERなど)、海外映画、ディズニー、ジブリアニメなどバラエティも豊富! もちろんTOEIC、TOEFL、USMLEなどの教材も多く揃っています。



英語の勉強をする、観たいDVDを見るには最高の環境です。DVDの数は100本以上!特に海外ドラマERやディズニーが人気です。すべてのDVDを英語字幕や英語音声で視聴できますが、日本語音声でも見ることができ、英語の勉強目的じゃなくても、ぜひ一度気になる映画やドラマを見にSACに来てください!間違いなくレンタルショップでDVDを借りるよりオトクです(笑)! 図書館内にあるので、勉強の合間の息抜きにも利用しています。

医) 医学科4年 宇戸谷 翔太



各キャンパスの施設の場所が
わからなかったら先輩や職員に聞こう!



福井大学広報センター
マスコットキャラクター
広福くん

学生広報スタッフ募集中!

学生広報スタッフを募集しています。福井大学生なら誰でもOK! 広報誌の編集、ブログの作成に興味のある人、大歓迎です。希望する人は気軽に連絡してください。一緒に楽しく福井大学の魅力を発見して広めていきましょう。



待ってるよ~!

福井大学広報室 Tel/0776-27-9733

E-mail/sskoho-k@ad.u-fukui.ac.jp

【メールへの明記事項】

タイトル: 広報スタッフ応募

内容: 氏名、学部(研究科)学科(専攻)、学年、住所、携帯電話、E-mail、応募動機

※ご記入いただいた個人情報は学生広報スタッフの活動にのみ使用いたします。

↓ 応募はこちらから

ブログ
「うらら@ふくだい」
更新中



キャンパス間の
移動は

キャンパス便で!

松
管理棟前



文
事務棟前

1日
4往復

手続き
不要

無料

迷いながらも決めた道 背中を押したのは使命感

日本原子力研究開発機構
原子炉廃止措置研究開発センター 環境管理課

やまもと こうすけ
山本 耕輔さん

大学院工学研究科 原子力・エネルギー安全工学専攻
博士前期課程2014年修了



「福島の事故に衝撃 やらなければ」の気持ちに

私が石川工業高等専門学校校生のある「原子力カレッジ」で、「原子力カレッジ」と謳われ、原子力は、これから社会になくてはならない技術として注目を浴びていました。出身地の石川県内灘町の近くには北陸電力の志賀原子力発電所もありましたし、インターンで日本原子力発電の敦賀原子力発電所を見学し、電気設備についてもっと学びたいと思い、福井大学工学部の電気・電子工学科に3年次編入しました。

その年の3年生の春休みに東京電力の福島第一原子力発電所の事故が発生し、衝撃が走ったことは鮮明に覚えています。当時は原子力安全工学の副専攻に所属し、原子力と社会の調和を考える「リスクコミュニケーション論」という学問領域を知ったところでした。本来この学問は原子力発電所を建設する前に、立地地域にどのような影響があるのかなど、さまざまな想定を考えて、地域との共生や安全策を講じるものです。今の日本の現状を考えると、原子力発電所は既にあり、原子力への理解を立地住民の方々に求めることは、「説得」になるので、「コミュニケーション」として成り立たないと感じていました。授業を担当していた山野直樹特命教授は、「どうしていくかというと思う？」と私たちに問いかけ、いろいろ



現在の勤務先となった核燃料サイクル工学研究所での実習

な方向に考えを巡らせました。福島事故後は多くの人が原子力に不信感を抱いていますから、この分野に進んで良いのか迷ったのも事実です。でも、こんな時だから「やらなければ」という気持ちが生え、大学院の原子力・エネルギー安全工学専攻に進学しました。

作業員の放射線量を測定 現場の把握に努める

博士前期課程を修了後、敦賀市にある日本原子力研究開発機構の原子炉廃止措置研究開発センターに勤務し、3年目を迎えました。現在は新型転換炉「ふげん」の解体作業を進めるための放射線管理を担当しており、作業従事者の受けた放射線量を測定しています。積極的に現場に行き、先輩から学ぶ日々ですが、今年からは持ち場を任せてもらえるようになりました。

修士論文を書くために、福島原子力事故の調査報告書を精読し、マニユ



秋の原子力学会を終えてお疲れ様会

アルがあっても現場を理解することが重要だと痛感し、自分だけでなく、他の作業員もどんな業務にあたっているかなど、現場をより把握することに努めています。

自分の視野を広げる チャンス

ふげんは、平成34年には原子炉本体の解体作業に着手する予定です。廃止措置というと、なくなるイメージが強いですが、安全に解体するための技術を考えるために新しいものづくりと言ってもよい技術開発が常に行われている分野です。

原子力分野への進学は、全国各地の施設見学や他大学の人とのディスカッションなどが非常に多く、自分の視野を広げるチャンスがたくさん得ることが出来ます。業界も若い力に期待してくれています。ぜひ、多くの学生さんに挑戦してもらいたいですね。



TOPICS
1

天野浩教授特別講演会を 開催しました



青色LEDを見せながら



会場からの質問に答える

青色発光ダイオード(LED)の研究開発でノーベル物理学賞を2014年に受賞した天野浩名古屋大学大学院工学研究科教授の講演会を、2月13日に福井市のフエニックスプラザ大ホールで開催しました。天野教授とともに国家プロジェクトである窒化物半導体パワーデバイス応用研究を進める本学工学研究科の葛原正明教授の招聘により実現しました。

「ノーベル賞受賞から1年——青色LEDに続く未来へのメッセージ」と題した講演会には、公募による一般市民、学生、教員ら約1,000人が参加。天野教授は、報道では知ることができなかったノーベル賞の秘話、共同受賞者の赤崎勇教授との研究開発、葛原教授との共同研究に触れ、お祝いのシャンパンを飲み過ぎて受賞記念音楽会の客席で寝込んでしまった失敗談などユーモアを交え

ながら披露。青色LEDの成功に欠かせない窒化ガリウムのきれいな結晶化について、赤崎教授との研究を振り返り、「本来1億円もする実験装置を300万円の予算で作り出したが、研究室のみならず取り組んだ作業は楽しかった。1500回以上失敗したが、必ず新しい発見があり、おもしろく感じなかったことは一度もない」と研究の醍醐味を語りました。

また最近の取組として、JICAのプロジェクトで衛生的な水の不足が深刻な途上国地域での活動を紹介、紫外線LEDを使って水に含まれる大腸菌を1分ほどで死滅させる装置を産学官連携で開発したことを説明。天野教授は「社会に役立つ技術の開発で、安全、安心の実現に貢献していきたい」と将来への意欲を語り、会場からの質問にも答え、約90分間の講演を締めくくりました。

福井大学基金

学生の皆さんへの修学支援のため、
福井大学基金へ多くのご厚意が寄せられています。
ご支援に対し、心より御礼申し上げます。

今号では、平成27年12月1日から平成28年2月29日までの寄附報告
及びご寄附くださいました個人・法人・団体様で
掲載をご承いただいた方のご芳名(50音順)を掲載させていただきます。
今後とも福井大学基金へより一層のご支援を賜りますよう、よろしく御礼申し上げます。

福井大学基金の寄附状況 (平成28年2月29日現在)

寄附申込数 1,585件(延べ数) / 寄附申込額 1億319万1,985円

個人

青木 直美 様	窪田 昭一 様	竹内 博司 様
青山 庸 様	倪 祥妍 様	竹原 和行 様
朝倉 俊行 様	小泉 卓也 様	城 尚子 様
伊佐 公男 様	郡 喜美男 様	千原 一泰 様
恵美 英丸 様	坂井 佳美 様	西村 弘明 様
片山 元 様	阪口 博之 様	林 洋三 様
加藤 秀志 様	清水 嗣能 様	本定 千知 様
木内 晃 様	菅井 学 様	眞弓 光文 様
葛原 正明 様	高田 博文 様	水上 幸子 様

法人・団体

石黒建設株式会社 様	昭和47年・52年卒業生有志 様
医療法人幸若会 様	昭和47年卒業(昭和43年入学) 様
打波外科胃腸科婦人科 様	教育学部・工学部同窓会 様
医療法人六生会 宮地内科 様	轟産業株式会社 様
株式会社シャルマン 様	フクビ化学工業株式会社 様
株式会社ジャロック 様	舞鶴共済病院 様
技建工業株式会社 様	有限会社 赤坂電機 様
ケイター情報システム株式会社 様	ほか 匿名希望1件

福井大学基金の詳細については、
福井大学HPをご覧ください。

<http://www.u-fukui.ac.jp/kikin/>



福井大学基金についてのお問い合わせ先

福井大学基金事務局 〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9-1
TEL 0776-27-9903(ダイヤルイン) FAX 0776-27-8518
E-mail kikin@ad.u-fukui.ac.jp

学生生活応援！

学務部からのお知らせ

学生支援センターをご利用ください！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

福井大学では皆さんの学生生活における様々なサポートを行っています。特に、学生支援センター（文京キャンパス 食堂2階）と学務室（松岡キャンパス 管理棟1階）には、皆さんをサポートするスタッフがいます。

授業に関することを聞きたいとき、奨学金や授業料免除について知りたいとき、各種証明書が必要なとき、大学の施設を使いたいとき、サークル活動に関して知りたいとき、落し物を探してい

る・拾ったとき、物品を借りたいとき等、いつでも気兼ねなくお訪ねください。



学生支援センター

受付時間（学生支援センター・学務室）

授業期間中：平日8:30～18:15（土日祝は休み）
長期休業中：平日8:30～17:15（土日祝は休み）

「学生総合相談室」のホームページ開設！

に役立ててくださいね。

こんにちは、学生総合相談室です！
この度、ホームページを開設しました。学生の皆さんがより見やすく、使いやすいように、デザイン・構成を工夫しました。また、スマートフォンにも対応したサイトになっていますので、気軽に閲覧できます。相談室の紹介や、これまでによくあった相談のQ&Aなど内容も充実しています。何か困ったり、悩んだりした時には、ぜひこのサイトを覗いてください。

フォームから簡単に予約ができますので、気軽にアクセスして学生生活



学生相談室のホームページ

<http://soudan.ad.u-fukui.ac.jp/>

福井大学 HP → 在学生の方へ
→ 学生生活支援について知りたい → 学生総合相談室
福井大学 HP → 学生生活・就職
→ 相談・意見・質問 → 学生総合相談室

編集後記

福井大学が4学部となる節目の年に、このキャンパスで過ごす学生・教職員はとても幸運なことのように感じます。新しい門出には期待もあるが緊張もする。それでもやっぱり「千載一遇」のチャンスだと信じて進みたい。

特集の座談会で話題になった「多様性」と「感受性」のキーワード。怖がらず多くの出会いを享受し、人間としての幅をどんどん広げることができれば、さまざまな課題に自然と立ち向かうことができるのではないのでしょうか。まずは、フレッシュな春を身体いっぱいを感じるころから始めましょう。

Editor's note

本冊子の感想を教えてください

広報誌「ふくだいプレス25号」を読んだ皆さんの感想を教えてください。アンケートに回答いただいた方の中から抽選で10名に「福井大学 No.1カレー」をプレゼントします。ぜひ一度は味わってみてください。



プレゼント

(実物とは異なる場合があります)

[応募方法]

QRコードもしくはURLから応募ください。
応募締め切り：5月30日(月)
<http://www.u-fukui.ac.jp/m/>



みなさまからのご応募、お待ちしております！

ご記入いただいた個人情報は、プレゼントの送付、及びお問い合わせ・ご意見をいただいた際のご連絡に使用させていただきます。

ふくだいプレス 第25号

発行日/平成28年4月 発行者/福井大学広報センター
TEL: 0776-27-9733 E-mail: sskoho-k@ad.u-fukui.ac.jp